



# かわにし

川西高等特別支援学校  
学校だより 第31号  
令和5年6月9日

## 『個に応じた ICT を活用した教育活動』に向けて

研究主任 清田 勝也

当校では、地域の産業構造や社会情勢、生徒の実態等の変化に対応できる指導の実現に取り組みながら、生徒一人一人の自立と社会参加を目指しています。

今年度当初の職員研修においては、新潟県立教育センターより辺見指導主事をお招きし、個別の教育指導計画の目標の立て方及び、評価の視点について研修を行いました。また、6月には進路指導研修、8月には自立活動研修を予定しています。その他にも様々な分野の研修機会を数多く設け、実践的な研修を重ねています。

昨年度は「語り合い 学び合う ～指導と評価の一体化を目指した授業開発～」を研究主題として、国語及び数学の授業開発に取り組みました。学習評価には、自らの学習を振り返って学習に向かえるようにする学習者にとっての意義と、学習の成果を捉え、計画や指導・支援等の改善・充実を図る教師にとっての意義があります。指導と評価を一体と捉えて進めることで、生徒も教師も、目標や課題をもって学習を進めることができ、生徒の習熟度を捉えつつ、日々授業を改善しながら学習評価を充実させることができました。しかし、昨年度の振り返りから、より日常的に ICT の活用を推進しながら、教育活動を充実させていく必要があるのではないかなどの意見が聞かれました。

そこで今年度は、ICT活用スキルと情報モラル教育の研究に取り組みます。令和元年度より GIGA スクール構想として、1人1台端末及び高速大容量の通信ネットワークが一体的に整備され、個別最適な学びと協働的な学びを全国の学校現場で持続的に実現させる取り組みが推進されています。特別支援教育における ICT 活用の視点としては、教科指導における有効活用は勿論のこと、自立活動の視点も必要です。個に応じた ICT 活用スキルや、情報モラルを就学中に身につけておくことは将来の自立に向けての大きな力となります。

教科指導の効果を高める視点として、美術や音楽、職業技能を中心に全教科で、ICT機器を活用した授業作りを進めます。また、より生徒に分かりやすい授業を通して生徒の ICT 活用スキルの習得も目指します。特に、社会生活では、情報活用能力（タブレットを利用し調べて活用する）の育成、自立活動の視点としては、意思の表出が困難な生徒に対して、タブレット等を活用し意思の表出や気持ちを相手に伝えることの練習や、発表が苦手な生徒に対して、読み上げ機能の活用や事前に録音した音源を流す等、生徒の実態に合わせた活用を進め、個別最適な学びを目指します。

上記の研究や研修、日々の授業実践を元に、全教師が各自の実践をまとめ、校内で実践発表を行います。その中から、3～4点を選出し、代表として魚沼地区特別支援教育フェスタ（魚沼地区特別支援学校5校によるポスターセッションを中心とした合同研修会）でも発表を行います。

今年度の“KAWANISHI”も、これまで同様に、教師同士が語り合い学び合う中で組織・個人共に力をつけていくことを目指します！

# 「合わせる」ということ

進路指導主事 山澤小百合

生徒たちを支えてくださっている保護者の皆様。日頃、当校の進路指導にご協力いただき、本当にありがとうございます。校歌の歌詞のように「一步一步進むこと」「自分らしく進むこと」を大切に進路指導を進めていきたいと思えます。

さて、小学校（小学部）、中学校（中学部）、高等部と進んできた生徒たち。どの学校でも、特別支援教育は学校の教育活動の中心になっていて、その中で日々生活し、様々なことを経験してきたのではないのでしょうか。

現在、生徒達が学んでいる高等部は、中学校や中学部との連携という視点では、小・中学校や小・中学部からの引継ぎを元にした支援を大切にしています。しかし、高等部の教育活動は、ただ単に中学部や中学校の延長線なのではなく、少し視点を変えて、レベルアップする場でもあります。

小・中学校や小・中学部は、子ども一人一人を知り、個々に合う学習方法や手だて、場所などを見つけて、実践することを大切にしているように思います。先生方は、年代や個々に合った手だてを見つけて出そうと工夫を重ねます。私も小学校勤務が長かったので、そのようにしていたことを思い出します。そのおかげで、個々に合う支援方法が見つけて、実践することができました。

高等部は、そこからレベルアップし、周りの人に合わせてもらったり工夫してもらったりするだけでなく、「自分が相手に『合わせる力』をつけること」も、進路を決めていく上で大事になります。学校での「合わせる力」の例では「学校のルール、時間、集団行動の方法に合わせる」、友達同士の会話では「相手の話題に合わせる」などです。

現場実習は、「事業所が求めていることに合わせられるか」ということが評価につながってきます。障がい者雇用の方法や支援の方法は、事業所によって異なります。今までご家庭や学校で行ってきた方法が、事業所にとっては実施が難しい場合もあります。現場実習に向けて、実習先が求めていることに合わせられるよう、生徒達は、各自の目標を立て、報告、挨拶、身だしなみ、実習で使う仕事上の技術（清掃、整容、製品作り、接客等）などについて、「職業」の授業やチャレンジタイムなどで練習しています。

個性や特性は生徒たちの魅力です。そして、もちろん、個々に合った支援方法は大切にしなければなりません。ただ、生徒たちは社会人目の前の高等部生。個々の魅力を大切にしつつ、「相手に合わせる」という視点も常に心にとめておきながら、指導し成長を支援することが、生徒たちの幸せな社会人生活につながるのではないかと考えます。

いよいよ校内実習・現場実習が始まります。一人一人の生徒にとって、学びと成長を実感できる実習になるよう、学校全体で指導・支援に当たります。ご家庭のご支援とご協力をお願いいたします。

# Enjoy full-power スポーツフェスタ

体育主任 目黒 嘉一

この体験会形式でのスポーツフェスタは今年で4年目になりました。参加人数は生徒、保護者等を合わせると、100人ほどの人数でスポーツフェスタを楽しみました。

さて、体験会では6種目のスポーツを生徒と保護者が一緒に体験し、真剣な顔、はじける笑顔を見ることができました。ストラックアウトでは投げ方を子供さんに教えている姿、サッカーシュートでは最初に蹴った子供さんの得点と一緒に得点が出せて、ほっとしているお父さんの姿など親子で楽しんでいる様子をたくさん見ることができました。スローガンにある“Enjoy full-power”の言葉を文字通り実践していました。

その後、生徒会種目の“シュレッターダスト・リレー”を行いました。最初の“コールパフォーマンス”では3年生を中心に精一杯アピールする姿に、大きな拍手が送られました。優勝を目指し、スピードと慎重さのバランスを考えながら、チーム一丸となって取り組みました。大いに盛り上がりました。

後半のボッチャの試合では、今年も保護者チームの容赦の無い攻撃に屈し1年A組の保護者に優勝をさらわれてしまいました。しかし、優勝決定戦を戦った2年C組の皆から「来年は必ずリベンジします。」という言葉聞くことができました。“この言葉を待っていたんだー！ 期待しています！”

これからも生徒自身が自ら身体を動かす楽しさを実感できるような授業作りに取り組んで参ります。

来年度の“スポーツフェスタ”への参加もよろしくお願いします。



## 主な行事予定（令和5年6月9日現在）

- 4月10日（月）入学式・新任式・1学期始業式
- 17日（月）新入生歓迎会
- 22日（土）PTA総会・授業参観・学年懇談会・3年進路説明会
- 5月2日（火）生徒総会①
- 12日（金）1・2年実習説明会
- 16日（火）2・3年ふれあいジョブ（～5/31）
- 18日（木）避難訓練①
- 20日（土）スポーツフェスタ
- 26日（金）いじめ見逃しゼロ全校集会①
- 29日（月）個別懇談① 12：30下校（6/1、6/2）
- 6月12日（月）前期現場・校内実習（～6/30）
- 28日（水）1年進路校外学習
- 7月4日（火）オープンスクール①
- 7日（金）漢字検定①
- 13日（水）2年宿泊学習（～7/14）
- 24日（月）1学期終業式（12：30下校）
- 9月1日（金）2学期始業式 避難訓練②
- 12日（火）オープンスクール②
- 13日（水）3年修学旅行（～9/15）
- 19日（火）1年ふれあいジョブ（～10/4）
- 25日（月）2年まちの産業発見塾・進路校外学習
- 28日（木）個別懇談②（9/29、10/2）
- 10月16日（月）後期現場実習（～11/2）
- 11月10日（金）漢字検定②
- 13日（月）いじめ見逃しゼロ全校集会②
- 18日（土）やまゆり祭
- 12月22日（金）2学期終業式
- 1月9日（火）3学期始業式
- 17日（水）生徒会長選挙
- 19日（金）1日参観・学年懇談会及び進路説明会
- 30日（火）2年ふれあいジョブ（～2/14）
- 2月2日（金）入学者選考検査（在校生自宅学習）
- 9日（金）漢字検定③
- 15日（木）個別懇談③（2/16、2/19）
- 21日（水）3年市内校外学習
- 3月1日（水）生徒総会②
- 21日（木）3学期終業式
- 22日（金）卒業式・卒業を祝う昼食会
- 25日（月）離任式